

## 【65 例目】三重県（津市）における 豚熱の患畜確認農場の現地調査概要

拡大豚熱疫学調査チームによる現地調査の概要は以下のとおり。

### （１）農場の概況

- ① 当該農場は、平野に位置する一貫経営農場であり、農場の周辺には工場や雑木林が存在していた。
- ② 農場周辺では野生イノシシの生息が多数確認されており、昨年11月から今年2月にかけて、農場から半径約5.0km圏内の3地点で野生イノシシの感染が確認されていた。

### （２）飼養衛生管理関係

- ① 飼養管理者は農場立入り時にシャワーを浴び、農場専用の長靴、作業着に着替えていた。
- ② 農場には飼養豚を管理する職員が12名おり、各離乳・肥育、分娩、妊娠のステージに作業者が分けられていた。
- ③ 発生豚舎である離乳豚舎に入る際は、各豚舎専用の長靴に交換し、手指を消毒するとともに、畜舎内の各部屋に入る際には、部屋ごとの作業着と長靴に交換していた。その他の豚舎に入る際は、畜舎ごとに長靴を交換していた。作業着は畜舎毎ではなく、ステージ毎に着替えていた。また、手指消毒は実施していなかった。
- ④ 飼料や豚の輸送車両等が農場に入る際には、農場入口の車両消毒装置または動力噴霧器で車両消毒を行い、運転手は農場が用意した長靴と手袋、作業着を着用していた。また、畜舎内に立ち入る工事関係者等は農場立入り時にシャワーを浴び、農場専用の作業着と長靴に交換していた。
- ⑤ 隣接する工場の浄化槽が農場内に所在していることから、当該工場の従業員がその管理のため衛生管理区域内に立ち入ることがあったが、豚舎に入ることはないため、農場専用の長靴、作業着への更衣はしていなかった。
- ⑥ 豚を豚舎間で移動する際は、母豚は豚舎外の通路を歩行させ、子豚はトラックで運搬していた。通路、トラックは使用前後に洗

浄・消毒していた。

- ⑦ 飼料は、配合飼料を給与するとともに、離乳豚と肥育豚には動物性蛋白を含まない食品循環資源を使用したりキッドフィードを給餌していた。
- ⑧ 農場では主にパイプラインで自動給餌していたが、育成豚舎のみ給餌車で搬入していた。搬入の際の給餌車の消毒は実施していた。
- ⑨ 飼養豚への給与水は、地下水に消毒薬を添加し給与していた。
- ⑩ 糞は、農場内で固液分離し、たい肥化していた。たい肥舎には屋根は設置されていたが、ネット等はなかった。
- ⑪ 死体は冷凍庫で保管し、化製処理業者が回収していた。この際、農場の車両が農場入り口に停めた業者の車両まで、保管容器を運んでおり、業者の車両が農場内に入ることはなかった。
- ⑫ 肥育豚舎の一部では敷料としておが粉を使用しており、その貯蔵場所には屋根及び防鳥ネットは設置されていたが、小動物が侵入可能な隙間や破損が認められた。

### (3) 野生動物関連

- ① 衛生管理区域の周囲には、金網フェンスが設置されており、農場出入口には門が設置され、使用時以外は閉鎖されていた。
- ② 飼養管理者によれば、農場周辺ではイノシシは確認していないが、ネコ、ハクビシン、アライグマ等を目撃したことがあるとのこと。また、農場敷地内でも、ネコ等の小動物が確認されていたとのこと。
- ③ 発生豚舎はウインドレス豚舎だが、飼養管理者によれば畜舎内でネズミを見かけることが多かったとのこと。また、その他の豚舎は開放豚舎だが、壁面や防鳥ネットに破損が複数認められ、立入り時に畜舎内でネズミが複数確認された。

### (4) 臨床症状の経過

- ① 当該農場では令和元年10月に初回の豚熱ワクチン接種が実施されており、その後、継続的に豚熱ワクチン接種が実施されていた。
- ② 本年3月28日に発生豚舎で10頭以上の死亡が確認されたが、換気不良を疑ったことから、通報には至らなかったとのこと。

- ③ 4月上旬には肥育畜舎で複数頭の死亡が確認されたとのこと。
- ④ 4月6日に飼養管理者が発生豚舎を確認したところ、畜舎全体の活力低下やうずくまりが確認されたため、獣医師に相談したが、豚熱とは考えず PRRS を疑ったとのこと。しかしながら、その後も死亡が継続したため、13日に家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ⑤ 調査時には、発生豚舎及び肥育豚舎で死亡、活力低下、チアノーゼ、パイルアップが確認された。

(以上)